

風景と共鳴する新しい道の駅

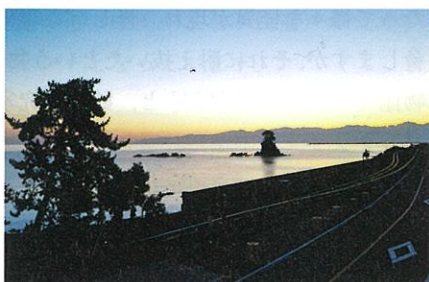
地域の観光資源発信拠点



稲垣 美香
INAGAKI Mika
富山県高岡市
道の駅「雨晴」駅長

はじめに

当施設の目の前ある雨晴海岸は、能登半島国立公園内に位置しており、天候に恵まれれば富山湾越しに3,000 m級の立山連峰を望むことができます。歴史的文化もあり、古くは万葉集や松尾芭蕉の『おくのほそ道』に詠んだ由緒地でもあり国名勝に指定されています。



国指定名勝地の雨晴海岸からの朝日



雨晴海岸から望む春の立山連邦

施設整備前は、風景を楽しむスペースもなく、雨晴海岸に行く安全な歩道もありませんでした。雨晴海岸の自

然環境を保護し、その魅力を全国に発信してより多くの方に来ていただけるようにという思いを込めて道の駅「雨晴」は平成30年4月25日に開駅いたしました。

1. ビュースポットとしての楽しみ方

施設の大きな特徴は景観を生かし、景観を楽しむための作りになっていることです。例えば地上階から3階までをゆるやかな階段でつなぎ、2階と3階では異なる視座で眺められる工夫が施されています。もともとアマチュアカメラマンの撮影スポットとして有名であった場所が、流行りのSNS映えスポットとしても注目され、館内のあらゆるところでベストショットを撮ろうとスマートフォンやカメラを手に訪れる方が多いのが、他の道の駅とは大きく異なる特徴です。

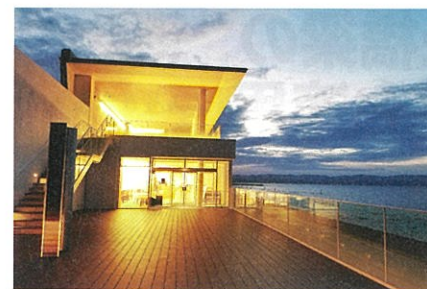
また、間接照明や景観照明が効果的に演出されていて、全時間帯において話題性のある建物となっております。



道の駅「雨晴」外観

基本情報

- 所在地 富山県高岡市太田24番74
- 路線名 国道415号
- 登録年 平成29年
- 敷地面積 約4,100m²
- 駐車場 大型：4台、普通：55台、身障者用：1台
- トイレ 男：11、女：9、多目的：1
- 主な施設 情報提供スペース、飲食・物販スペース、多目的ルーム、展望デッキ、サイクルステーション等



日が落ちるに連れ間接照明や景観照明によって演出される道の駅

2. 地域住民と一体になって盛り上げる

ビュースポットとしての認知度はまだまだこれからといったところ。せっかくの歴史ある美しい風景地を活用していかなければ意味がありません。

雨晴を観光名所として広めたい—地域住民のそんな願いがようやく実現して道の駅雨晴はオープンしました。

全国から観光に来るお客様をもてなしたい、また地域住民にも改めて自分たちの地域に誇りを持ってもらいたい、そういう思いを持った地元の観光ボランティアの方々と協同して道の駅を育てている最中です。

地元の特産品であるさつまいもなど地場野菜を作り手が観光客に向けてPRする場として、毎月第2日曜日に開催しているマルシェも、回を重ねるごとに来店希望が増えてくるなど、地元経済にも少しずつ貢献できるようになってきました。



毎月第2日曜日に開催されるマルシェの様子

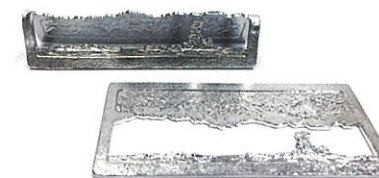
地域の方々は、雨晴に興味を持ってもらえることを嬉しく思っておられます。開駅して初めて迎えるお正月は、感謝の気持ちを込めて、3日間ふるまいイベントを開催しました。興味を持ってもらうことで、素晴らしい景観を将来にわたって引き継ぐために、環境保護にも関心を持ってもらいたいという目的もあります。

魅力ある道の駅づくりには地元の方との協力が欠かせません。

3. 高岡のファンづくり

高岡の伝統工芸は銅器です。高岡銅器の始まりは、1609年に加賀藩主の前田利長が高岡城へ入城し、町の繁栄を図るために鑄造を奨励したことがきっかけ。伝統を新しい形で取

り入れている企業も多くあり、それらを広くPRする場としての機能も備えています。地元企業と協力してオリジナル商品の開発にも力を入れ、新しい雨晴の魅力発信を続けています。



道の駅雨晴オリジナル商品「能作 カトラリーレスト」



伝統工芸高岡銅器の職人の技が息づく「おともしん雨晴」

また、2階フロアは開放的なオーシャンビューになっており、海辺の世界観の中でお買い物やお食事をして頂けるようになっています。開放的な空間の中で、ここでしか手に入らないものや味わえないものを提供することで、高岡という地域に魅力を感じていただければ幸いです。

4. コンセプトは「とおくを想う」

日常の喧騒を離れ、地理的にも遙か遠景の異国の地に思いを馳せたり、歴史的時間軸の中でも悠久を感じたり、非日常を体感していただくことがコンセプトとなっています。単なる休憩所として道の駅にとどまらず、季節ごとに訪れるたび新しい発見がある、美術館やテーマパークのような道の駅に育てることを目標としています。

子育てと同じように、長い年月をかけて時代の移り変わりとともに趣向を凝らし、地域に根付くスポットにするプロジェクトは始まったばかりです。

おわりに

ゆくゆくは地域一帯が、観光地として周遊できるよう、街づくりにも貢献できる拠点に発展するべく、他市町村や民間団体とのコラボレーションも積極的に行っていききたいと思います。

「世界で最も美しい湾クラブ」の総会が10月に富山で開催されたことや来年の東京オリンピックを控えていることから、今後は世界からの注目もより一層高まることを視野に入れ、インバウンドにも力を入れていきます。